

かんばってるよ～



↑こんなに高いいぼうを、つなみはこえてしまいました。

4月も中ごろになり、いわ手県いわいずみ町では、まだ風がつめたく感じる日がありますが、少しずつあたたかくなり、さくらのつぼみがふくらむなど春のおとずれが目に見えてきています。まだ、地しんは、ときどきおきてはいますが、少しずつゆれが小さくなっていて、町の人たちはおちついて生活しているようです。

3回目にいわいずみ町へ行ったみなさんのほうこくです。

◎だい3はん

- ・行ったき間 4月8日(金)から4月15日(金)まで
- ・行ったしごと ひなんしょにいる人たちが自分の家やしごとに行くときの記ろく、ひなんしょへたずねて来た人へのあん内、手紙やはがきのうけわたし
- ・手つだった時間 (昼) 午前8時30分から午後5時30分まで
(夜) 午後5時30分から午後11時30分まで
(つぎの日の朝) 午前5時30分から午前8時30分まで

ひなんしょ

- 町みん会かんに25人、ホテルに140人、あわせて130の家ぞくの人たちがひなんしている。町みん会かんにひなんしている人の数はへってきている。
- ふだんは明るく、わらい声も聞こえてくるが、親せきや親しい人たちと話すときには「早く家に帰りたい。」などの本当の気もちも話している。
- 食じは、朝と夕方にはあたたかいものが出る。昼はパンやおにぎりがくばられる。
- おふろには、まい日は入れる。
- 自分の家を見に行ったり、かたづけに行ったりするときには、バスでおくってくれる。
- 子どもたちは、ひなんしょから学校へかよっている。

かりにすむ家

- 5月の中ごろまでに、130家ぞくがすめる、かりにすむ家がかんせいする。
- 地しんがおきたときからひなんしょ



↑かりにすむ家を作っているようす

に入っていない人たちの中にも、かりにすむ家へすみたいときぼうしている人たちがいて、そのことも考えなくてはいけない。

町の人たち

- 「海のそばにもどりたいが、何年かたつとまたつなみ来ると考えると、もう海の近くにはすめない。」という人がいた。
- りょうしさんたちや船がしずんでしまった人が、「家は1～2年でたてることができても、魚をとるには何年かかるかわからない。」と話していた。

町のしょくいん

- しごとがたくさんあって、自分の家に帰れない人もいる。

生活にひつようなもの

- 「りゅうちゃんドーム」にたくさんとどいていた。今、ひなんしょにいる人たちにはたくさんとどいている。かりにすむ家ができあがったら、すむ人たちにくばっていく。

ボランティア

- おもと地くには、まだ、自えいたい、しょうぼう、けいさつといわいずみの人たちしか入ることができない。

おもとのほかひがいの大きかった地く

- おもと地くの海がんに高さ10メートルのていぼうがあるが、そこをつなみがこえてきたとはしんじられない。
- おもとから海がんに南に行くと、ひがいはもっと大きかった。かたづいているのは道ろだけで、ほこりがひどかった。

今もつづいている地しん

- ゆれが小さくなっていて、町の人たちはおちついて生活している。

【北川市長からいわいずみまちへ行ったしょくいんにおくった言ば】

このけいけんを生かし、昭島市で地しんがおきたときにどうしたらいいかを考えて、たくさんのお見を出してほしい。



【いわいずみまちに行ったしょくいんのみなさんのかんそう】

すずき たかし さん

町が元どおりになることと、町の人たちの心と体が休まる日が一日も早く来ることをいのっている。

やまざき ただし さん

町が元どおりになることと、町の人たちの心をささえることがたいへんなことだとかんじた。少しでもやくに立ったならうれしい。



おおぬま はるゆき さん

人と人の心がしっかりとつながっているとかんじた。町が元どおりになる力になると思う。

ほしの としあき さん

地しんやつなみにあったところを見たときは言ばが出なかった。やくに立つのなら、また手つだいたいと思う。

